

地域づくり表彰

(鹿児島県長島町)

～長島ぐるっと一周フラワーロード～

鹿児島県 長島町



ながしまちょうちょう
長島町長

かわぞえ たけし
川 添 健

1. 長島町の概要

長島町は、鹿児島県の最北端の町として薩摩半島の北西部に位置し、四方を東シナ海、八代海、長島海峡などの海に囲まれ、島の一部は雲仙天草国立公園に指定される等豊かな自然に恵まれた地域で、長島本島のほか大小26の島々が点在します。



雲仙天草国立公園の眺め

昭和49年4月には、黒之瀬戸大橋の開通により阿久根市と結ばれ長島本島は離島から半島化しました。

また、伊唐島と諸浦島はそれぞれ伊唐大橋と乳之瀬橋で長島本島と繋がっており、現在は獅子島だけが有人離島であり、離島振興地域に指定されています。



黒之瀬戸大橋と日本三大潮流の渦潮

平成24年からは、町内に多くある自然石を使った「石張り花壇」と、景観に配慮した「石張り」や「石花」を長島一周に施すとともに、四季折々の花々を植栽し、多くの観光客が増えるとともに、癒しスポットのドライブコースとなっています。

2. 活動開始の背景・経緯

長島町は、平成18年に旧「東町」と旧「長島町」が合併して誕生しました。もともと離島であったこともあり、両町の融和や一体となった魅力あるまちづくりが大きな課題でした。

平成19年、解決策として花に着目。

町は「長島町ふるさと景観条例」を制定。具体的施策として、国道・県道沿いを花壇でつなぐ「フラワーロード」を提唱し、地域住民や地域団体が自主的に花壇管理を行う制度を開始しました。



フラワーロード沿いの花壇

町全体で取り組みを推進し、平成23年に町全体が会場とも言える「夢追い長島花フェスタ」が開催できるようになりました。以降も花の取り組みは拡大し、統計がとれる範囲では「フラワーロード」の花壇総延長は約14kmで約10万本。メイン会場の公園では約30万本もの花が咲き、期間中延べ15万人が長島町を訪問するイベントとなりました。



町第10回夢追い長島花フェスタ花壇

3. 活動のひろがり

〇ふるさと景観サポーター

3団体28人(平成19年)から始まり、現在では83団体1,433人(令和2年9月現在)となりました。町人口の1割以上が登録され、現在も登録団体は増えております。「サポーター」以外に、苗の育成、運搬、提供、苗の寄付といった活動を行っており、取り組みに関する関係人口は計り知れないです。また、花壇総延長14kmだけでも全国に類のない規模であると思われ、さらに花壇以外に草木の花が広がり続けています。また、近隣市にも広がり、長島の入口から阿久根北ICまでの約9kmの大半や、新幹線の最寄駅である出水駅近くの沿線にも花壇が波及しています。



景観サポーター

4. 継続的な活動を実現するために

継続的な活動を実現するためには、町の広報誌を活用し、花壇管理者の募集や新規認定者の紹介、ボランティアの活動紹介等、花に関連する情報を10年以上に渡りほぼ毎月、200を超える記事を掲載してきました。また、活動を充実させるために町では、花づくりの模範となる景観賞を設定し、毎年表彰を行っている他、種蒔き講習会の実施、花を育てるにあたっての悩み相談窓口を設けるなどの

取り組みを行っています。他には、人権の花運動への参加、小学生による独居高齢者宅への花の苗の配布を毎年実施しています。花を核とした長島の地域づくりとして、町民ができることを考えながら、町全体を巻き込んで毎年毎年充実させています。



テレビ放映



花フェスタ開幕式での景観賞の表彰式

5. 長島の花の取り組み

町内の小学校では、長島の花の取り組みを題材とした教育を取り入れたり、保育園では花壇管理者として園児たちが植栽、水掛け、草むしりなどを定期的に行ったりしています。また、長島町では、丸石や平石があらゆるところで出土されるものの、多くが捨てられていました。そこで、長島に古くから残る石積み堀に着目し、天然石を道沿いに設置する花壇や道路法面の材料として使うようになりました。普及のために施工の積算基準の策定、研修会やコンクールを実施し、長島の新しい道路構造物となりました。この石積みは全国初の工法と思われま。コンクリート構造物より3割安となりました。捨てられていた石が建設材料となり、また、石が除かれることにより新たな農場が生まれる等の相乗効果もあります。また、天然石の活用としては、新たに「石の花」が提案され、現在では100

輪以上の「石の花」が沿道沿いに咲いています。景観に関する町民参加の取り組みとしては、自然の身近な素材(杉、竹、流木など)や(空き缶、ペットボトル、貝殻など)を利用して造形物を制作・展示するイベント「ながしま造形美術展」があります。その作品をフラワーロード沿いに常設し、景観の一部となっています。



児童による手作りパンフレット



石積み品評会



ながしま造形美術展作品

6. 苦労話や課題

基本的に住民による自主的な取り組みとして町全体に広めるために、多くの町民に理解を得ることに苦労をしました。最初は、町職員自ら取り組み始め、他に町主催で種蒔き講習会や表彰制度の創設等を行いました。また、花の品種の選定から育成まで試行錯誤を繰り返してきました。労力が少なく育つ花の植栽・植林も始めています。



町民による植栽ボランティア

一般的な景観条例は、色彩を合わせるための規制や制限をかける内容が多い反面、長島町は1から作り上げる景観形成をコンセプトとしています。他に事例がなく、景観条例を作り上げるのに苦労しました。財源については、県から道路管理委託を受ける等の工夫を重ねて可能な限り町からの負担を行わずに確保しました。

7. 私も参加、自慢できるまちづくり

長島の景観が良くなっただけでなく、交流人口が増え、町内のいろいろな分野でおしの交流が深まりました。花壇管理を通じた取り組みが、「私も参加、自慢できるまちづくり」として「生きがい」や「やりがい」、「ふるさとへの愛着」となり、町全体の元気につながっています。また、道路沿いの不法投棄が減り、観光客から「ゴミひとつ落ちてなくて本当にきれいな花の町」と、感動の手紙が届いたり、花を背景に結婚式の撮り写真として使われる等、町民へのモチベーションが向上しています。

